

国語科 小学校第1学年カリキュラム

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
4	はる ◎先生の問いに答えて、見つけたこと、思い出したこと、想像したことを発言する。	A(1)ア	2			○児童の話したい、聞きたいという思いや願いを生かすよう工夫して進める。	関心のあることがらなどから話題を決め、必要なことらについて調べ、要点をメモする。	
	あかるいこえて ◎相手に応じて、丁寧なことばと普通の言葉との違いに気をつけてあいさつすることができる。	A(1)イ	2			○場面や状況によって普通の言葉と丁寧な言葉を使い分けようとする気持ちを持たせる。	相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら道筋を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話す。	
	どうぞ よろしく ◎相手によくわかるように自分の名前などを丁寧に書き、自己紹介をする。	B(1)ウオ A(1)アイオ 伝国(1)ウ(ア)	4			○前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせる。	書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。	
	おはなし よんで ◎先生が読んでくれる本を挿絵や写真も見ながら、想像をふくらませて聞く。	C(1)ウ	3			○場面の様子の変化や登場人物の行動の変化を把握させた上で、その様子を豊かに想像しながら読ませる。	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む。	
	うたにあわせて あいうえお ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読する。	C(1)アB(1)ウ 伝国(1)イ(イ)ウ(ア)	3			○明瞭な発音で文章を読む、ひとまとまりの語や文として読む、言葉の響きやリズムなどに注意して読むなどが重要であることをおさえる。	内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読する。	
	ふたりでおはなし ◎絵をみながら、型に合わせて尋ねたいことを見つけて質問したり、質問に答えたり、平仮名で濁音を含む単語や文を書くことができる。	A(1)オ B(1)ウ 伝国(1)イ(オ)(カ)	3 (+1)	濁音を含む語を間違えやすいので、練習が必要である。		○集中して聞かせる指導として、話し手の方に顔を向けたり、頷いたりしながら聞く指導をおさえる。	互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う。	
5	あかいとりことり ◎リズムの繰り返しを意識しながら読むこと	C(1)アウ 伝国(1)ウ(ア)	1			○明瞭な発音で文章を読む、ひとまとまりの語や文として読む、言葉の響きやリズムなどに注意して読むなどが重要であることをおさえる。	内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読する。	

	ができる。						
	はなのみち ◎語のまとまりや響きなどに気をつけて音読したり、場面の様子について想像を広げて読む。	C 1) アウ B 1) ウ 伝国 (1) イ (エ) (カ) (キ)	7 (+1)	促音、濁音を含む語と「～が～する」という文型の文が定着しにくいので練習が必要である。		○場面の様子の変化や登場人物の行動の変化を把握させた上で、その様子を豊かに想像しながら読ませる。	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む。
	わけをはなそう ◎身近なことや経験したことなどを思い出し、話題に沿って話す。	A (イ) 伝国 (1) イ (ア)	2			○相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すことを扱う。	相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話す。
	なぞなぞあそび ◎語と語の続き方に注意し、長音と助詞「は」を正しく表記してつながりのある文を書く。	C (1) アオ B (1) ウ 伝国 (1) イ (エ)	5 (+1)	長音と助詞「は」が間違えやすいのでの練習が必要である。		○前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせるようにする。	書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。
	あいうえおで あそぼう ◎遊び歌の語や文のまとまりや内容、言葉のおもしろさを楽しみながら声に出して読む。	C (1) ア B (1) ア 伝国 (1) イ (イ) (エ) ウ (ア)	5			○明瞭な発音で文章を読む、ひとまとまりの語や文として読む、言葉の響きやリズムなどに注意して読むなどが重要であることをおさえる。	内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読する。
	くちばし ◎説明の順序や内容を考えながら読み、自分の経験と結びつけて感想を持つ。	C (1) イオ (1) ウ 伝国 (1) イ (エ) (キ)	8 (+1)	拗音と助詞「を」が間違えやすいので、練習が必要である。		○順序に沿って内容の大体を読んで理解することに重点を置くように進める。	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む。
6	なんていったらいいの かな ◎相手や場面に応じて話すことができる。	A (1) イオ 伝国 (1) イ (ア)	3			○相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すことを扱う。	相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話す。
	おさるがふねをかきま した ◎言葉のまとまりごとに意味を考えながら音読する。	C (1) アウ 伝国 (1) ウ (ア)	2			○場面の様子の変化や登場人物の行動の変化を把握させた上で、その様子を豊かに想像しながら読ませる。	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む。
	こんな いしをみつけ ました ◎必要なことがらを思	C (1) アイウエ 伝国 (1) イ (ア)	4			○一音一音をはっきりとした発音で話すことを大切にさせる。	相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話す。

	い出したり見て確かめたりし、姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して順序立てて話すことができる。						
	おむすびころりん ◎語や文としてのまとまりや内容、文章のリズムに注意しながら声に出して読む。	C (1) アウ 伝国 (1) イ (ウ)	5			○明瞭な発音で文章を読む、ひとまとまりの語や文として読む、言葉の響きやリズムなどに注意して読むなどが重要であることをおさえる。	内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読する。
	はをへをつかおう ◎語と語をつなぐ助詞「は」「を」「へ」を正しく使って文を書く。	B (1) ウ 伝国 (1) イ (エ)	4			○前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせる。	書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。
7	すきなものなあに ◎「すきなもの」と「その理由」をその順序で2文で書く。	B (1) アウオ 伝国 (1) イ (オ) (カ)	4			○前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせる。	書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。
	おおきなかぶ ◎繰り返しの言葉や文章のリズムを考えながら音読したり、場面の様子や登場人物について想像を広げながら読む。	C (1) アウ 伝国 (1) イ (カ)	6			○場面の様子の変化や登場人物の行動の変化を把握させた上で、その様子を豊かに想像しながら読ませる。	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む。
	ほんはともだち ◎自分の読みたい本を選んで読む。	C (1) カ A (1) アエ 伝国 (1) ウ (ア)	2			○読む目的を意識して本や文章を選び、読書活動に関する見通しをもって取り組ませる。	目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読む。
	かけるようになった ◎日記や手紙に書くことを決め、必要なことがらを思い出すなどして集め、語と語、文と文とのつながりに注意して書く。	B (1) アウオ 伝国 (1) イ (エ)	7			○前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせる。	書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。
	ひらがなあつまれ ◎平仮名を読んだり書いたりする。	B (1) ウ 伝国 (1) ウ (ア)	1			○前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせる。	書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。

8	<p>いちねんせいのうた</p> <p>◎語のまとまりや言葉の響きなどを考えながら、工夫して音読する。</p>	C (1) ア 伝国 (1) ウ (ア)	2			○明瞭な発音で文章を読む、ひとまとまりの語や文として読む、言葉の響きやリズムなどに注意して読むなどが重要であることをおさえる。	内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読する。	
9	<p>おはなしを たのしも</p> <p>う</p> <p>ゆうだち</p> <p>◎登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。</p>	C (1) ウオ B (1) ア 伝国 (1) イ (ア)・ウ (イ)	8			○場面の様子の変化や登場人物の行動の変化を把握させた上で、その様子を豊かに想像しながら読ませる。	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む。	
	<p>はなそう きこう</p> <p>おはなし きいて</p> <p>◎経験の中からみんなにはなしたいことを選び、話の順序を考えながら話たり、話の大事なことを落とさないように興味を持って聞く。</p>	A (1) アイエ 伝国 (1) イ (キ)	4			○場面や状況によって普通の言葉と丁寧な言葉を使い分けようとする気持ちをもたせる。 ○大事なことを聞き落とさないため、集中して聞き取ることを指導することをおさえる。	相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話す。 話の中心に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりする。	
	<p>かんじで かこう</p> <p>かずとかんじ</p> <p>◎数を表す漢字やいろいろな教え方を書く。</p>	B (1) ウ 伝国 (1) ウ (イ)	4			○小1では、漢字に対する興味や関心、字形に関する意識などを養いながら、学年配当の80字の漢字を読めるようにする。また、漢字単独の読みだけではなく、文や文章の中で漢字を読むことも大切にし、文脈の中での意味と結びつけていくように進める	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使う。	
	<p>みんなで よもう</p> <p>みつけた</p> <p>◎文章の内容と自分の経験を結びつけながら読み、思ったことや考えたことを発表する。</p>	C (1) イオ B (1) ウ 伝国 (1)・イ (カ)	8 (+1)	主語と述語の関係に注意して文章を書くことが定着しにくいので練習が必要である。		○本や文章の内容や構成に対する思いや考えを書き、まとめる学習をさせる。	文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く。	
10	<p>かたかなをみつけよう</p> <p>◎片仮名の語を正しく読んだり書いたり、片仮名で書く語を使った文を書いたりする。</p>	伝国 (1) ウ (ア) B (1) ウ	3			○平仮名の読み書きについては、各教科等の学習の基礎となるものであり、小1でその全ての読み書きができるようにする必要がある。片仮名については、擬声語や擬態語、外国の地名や人名、外来語など片仮名で書く語がどのような種類の語で	日常使われている簡単な単語について、ローマ字表記されたものを読み、また、ローマ字で書く。	

						あるか知ることであつかう。		
	<p>たのしくつかおう</p> <p>かんじのはなし</p> <p>◎第1学年に担当されている漢字を読んだり書いたりし、漢字を使った文を、続き方に注意して書く。</p>	B(1)ウ 伝国(1)イ(イ) ウ(イ)	7			○小1では、漢字に対する興味や関心、字形に関する意識などを養いながら、学年配当の80字の漢字を読めるようにする。また、漢字単独の読みだけではなく、文や文章の中で漢字を読むことも大切にし、文脈の中での意味と結びつけていくように扱う。	漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつ。	
	<p>こえにだしてよもう</p> <p>くじらぐも</p> <p>◎場面のようなすを想像し、そのようすが表れるように声を出して読む。</p>	B(1)オ C(1)アウエ 伝国(1)・イ(オ)	10(+1)	「」の使い方に注意して文を書くことが、定着しにくいので練習が必要である。		○明瞭な発音で文章を読む、ひとまとまりの語や文として読む、言葉の響きやリズムなどに注意して読むなどが重要であることをおさえる	内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読する。	
11	<p>よく見てかこう</p> <p>しらせたいな、見せたいな</p> <p>◎書こうとする題材に必要な事柄をよく観察して書いたり、書いた文を読み返す習慣をつけ、間違いを見つけたりする。</p>	B(1)アウエ 伝国(1)イ(オ)	10			○書いた文を音読してみるなど、読み返す習慣を付けさせる。	文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする。	
	<p>ことばであそぼう</p> <p>◎文字を組み合わせると意味のあることばになることに気づいたり、言葉を探いながら言葉遊びの文を読んだりする。</p>	伝国(1)・イ(ア) ウ(ア)	2			○言葉が果たす多様な働きや特徴を理解させるために、使用する語句の量や範囲を広げながら、語句相互の意味関係を理解するようにして、同義語、上位・下位語、同音異義語、多義語などの学習に発展させる指導をさせる。	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く。	
	<p>くらべて よもう</p> <p>じどうしゃくらべ</p> <p>◎知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、文章の中の大事な言葉や文を書き抜く。</p>	B(1)イウオ C(1)イエカ 伝国(1)・イ(エ) ウ(ア)	12			○書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くように進める。	書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。	
	<p>まの いい りょうし</p> <p>◎読み聞かせを聞きながら、登場人物の行動を中心に、場面の様子を想像する。</p>	C(1)ウ 伝国(1)ア(ア)	1			○場面の様子の変化や登場人物の行動の変化を把握させた上で、その様子を豊かに想像しながら読ませる。	場面の様子の変化や登場人物の行動の変化を把握させた上で、その様子を豊かに想像しながら読ませる。	

	<p>むかしばなしがいつは</p> <p>い</p> <p>◎昔話や伝承などの本や文章を読んだり、読み聞かせを聞いたりし、発表する。</p>	伝国(1)ア(ア) C(1)オカ	4			○ず読み聞かせを聞くことで、伝統的な言語文化に触れることの楽しさを実感できるようにさせる。	易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりする。 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使う。
1 2	<p>日づけと よう日</p> <p>◎日づけのうたをたのしく唱え、言葉のまとまりに気づき、なじみの深い日づけを自由に書く。</p>	伝国(1)イ(ウ) B(1)ウ	5			○使用する語句の量や範囲を広げながら、語句相互の意味関係を理解するようにして、同義語、上位・下位語、同音異義語、多義語などの学習に発展させる指導をさせる。	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く。
	<p>かるたをつくろう</p> <p>あつまれ、ふゆのことば ◎かるたをつくるために冬の言葉を集め、それを使って、かるたの文を書く。</p>	B(1)アウオ 伝国(1)イ(ウ)	1 2			○書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書かせる。	書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。
	<p>本はともだち</p> <p>ずうっと、ずっと大ききだよ ◎文と文のつながりに気をつけて、紹介したい本のカードを読みあって楽しんだりする。</p>	B(1)ウオ C(1)ウオ ・伝国(1)イ(ア)	8			○前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせる。また、読んでもらった感想を受けて振り返るようにすることおさせる。	書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合う。
1	<p>てんとうむし</p> <p>◎語のまとまりごとに意味を考えながら、音読する。</p>	C(1)ア 伝国(1)ウ(ア)	2			○明瞭な発音で文章を読む、ひとまとまりの語や文として読む、言葉の響きやリズムなどに注意して読むなどが重要であることをおさえる。	内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読する。
	<p>ことばって、おもしろいな</p> <p>ものの 名まえ ◎意味による語句のまとまりや上位語・下位語の関係に気づく。</p>	伝国(1)イ(ア) (ウ)	3			○使用する語句の量や範囲を広げながら、語句相互の意味関係を理解するようにして、同義語、上位・下位語、同音異義語、多義語などの学習に発展させる指導をさせる。	表現したり理解したりするために必要な語句を増やし、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解する。
	<p>おみせやさんごっこをしよう</p> <p>◎宣伝のちらしに必要な事柄を集め、売る品物のよさが伝わるように</p>	A(1)オ B(1)アイウ 3伝国(1)イ(ウ)	8			○前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせる。	書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。

	文章を考えて書く。							
	<p>かたかなの かたち</p> <p>◎平仮名と関係づけて片仮名を書いたり、形の似た仮名の区別に注意して書いたりする。</p>	伝国(1)ウ(ア) B(1)ウ	3(+1)	「ツ」「シ」など間違えやすい片仮名に注意して文を書くことが、定着しにくいので、練習が必要である。		○擬声語や擬態語、外国の地名や人名、外来語など片仮名で書く語がどのような種類の語であるか知ることをおさえる。	日常使われている簡単な単語について、ローマ字表記されたものを読み、また、ローマ字で書く。	
2	<p>おはなしをたのしもう</p> <p>たぬきの糸車</p> <p>◎語のまとまりや言葉の響きなどについて考えながら音読したり、登場人物の行動を中心に場面の様子に注意したえ読み、想像を広げたりする。</p>	C(1)アウ B(1)ウオ 伝国(1)イ(オ)	10			○場面の様子の変化や登場人物の行動の変化を把握させた上で、その様子を豊かに想像しながら読ませる。	場面の様子の変化や登場人物の行動の変化を把握させた上で、その様子を豊かに想像しながら読ませる。	
	<p>ことばを たのしもう</p> <p>◎音節と文字の関係や、単語とそれを構成する文字の関係に気づく。</p>	伝国(1)イ(イ)	2			○言葉が果たす多様な働きや特徴を理解させる。	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く。	
	<p>これは、なんでしょう</p> <p>◎問題をつくるために必要な事柄を集めたり、分からないことや聞きたいことを尋ねたり、それに答えたりする。</p>	A(1)アオ 伝国(1)イ(ウ)	6			○集中して聞かせる指導として、話し手の方に顔を向けたり、頷いたりしながら聞く指導を進める。	互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う。	
	<p>ちがいを かんがえて</p> <p>よもう</p> <p>どうぶつの あかちゃん</p> <p>◎順序などを考えながら内容の大体を読み、文章の中の大事な言葉や文を書き抜く。</p>	B(1)アウ C(1)イエ 伝国(1)イ(カ) (キ)	6(+1)	「じぶんで～できます。」のように条件にあった文を書くことが、定着しにくいので練習が必要である。		○前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせるようにする。	書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。	
3	<p>にて いる かん字</p> <p>◎形の似ている漢字に</p>	伝国(1)ウ(イ)	4			○小1では、漢字に対する興味や関心、字形に関する意識などを養いながら、学年配当の80字の漢字を読	漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつ。	

	注意して、第1学年に配当されている漢字を読んだり書いたりする。					めるようにする。また、漢字単独の読みだけではなく、文や文章の中で漢字を読むことも大切にし、文脈の中での意味と結びつけていくようにすることをおさえる。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">すきなところをさがし</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">てよもう</div> <p>だって だっの おばあさん ◎場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら楽しく読んだり、文章の中の好きな言葉や文を書き抜いたりする。</p>	C(1)ウエ 伝国(1)イ(ア)	8			○場面の様子の変化や登場人物の行動の変化を把握させた上で、その様子を豊かに想像しながら読ませる。	場面の様子の変化や登場人物の行動の変化を把握させた上で、その様子を豊かに想像しながら読ませる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">合計</div>		306					